

## 時間の建築

cp20076 鳥居 春那

建築物を見た時、人は何を感じるだろうか。私は自然環境に馴染んでいるとか、ダイナミックで面白い発想だとか、建築物とその周りを見て単純な平面、または立体として建築を感じ取っていることが多かった。しかし、そんな私が初めて“時間”を感じた建築がある。それが愛媛県松山市にある坂の上の雲ミュージアムである。坂の上の雲ミュージアムといえば、建築家・安藤忠雄が設計した三角形が特徴的な建物だ。なぜ私がこの建築から時間を感じ取ることができたのか、そこには建築とその周辺環境に理由があった。

まず初めに坂の上の雲ミュージアムを訪れて驚いたのが、その静けさだった。坂の上の雲ミュージアムは愛媛県庁から歩いて数分、松山城や繁華街からも近く、たくさんの人が行き来する場所にある。そんな場所にあるというのに、敷地内に入った途端、まるで異世界に飛ばされたような静寂と雰囲気包まれる。これは建物というより地形と自然環境によるものだと考える。坂の上の雲ミュージアムに行くに



は、多くの観光客や買い物客、道後温泉までの路面電車などが通る大通りを一つ曲がり、少し細い道を進む。そうするとやっと右手に見えてくるのだ。しかしたどり着いても建物の入り口に向かうためさらに進むと、石垣や植物によってまた建物は見えなくなる。あんなに大胆で迫力のある建築だというのにまるで隠れ家だ。だがこの地形、環境による建物の見えにくさが、たどり着いたときの感動をより高めるのだと思う。この建物に行きつくまでが楽しい時間を生み出すのだ。そして坂の上の雲ミュージアムに行き、最初に目につくのが大きなガラスカーテンウォールである。このガラスも外側から見た時に時間を感じられる一つの要因だ。敷地内は周辺と比べ開けていることから、ガラスにはその時の空が映される。例えば昼時に訪れると青空が映るが、帰るときには夕日が映っている。建物の顔となっているガラスカーテンウォールが人に時間の流れを伝える手段になっていた。そしてこの建物から時間を感じるのには外観の形からの影響も大きい。坂の上の雲ミュージアムといえば三角形という形と、壁が外側にほんの少し傾いているのが特徴的だ。この三角形と壁が傾いていることには共通点がある。それは動きがあるということだ。建物は四角形で真っ直ぐという考え方があるからこそ、この二つの特徴を持つ坂の上の雲ミュージアムは、より人に語りかけてくるような動きを出しているのだ。動くということはその分時間が流れているということに繋がり、私がここで時間を感じたのはこの建物の動きにあると思う。

そしてやっとたどり着いた建物の中にも、私が時間を感じ取れた理由があった。その中で

最も印象的なのがスロープである。建物に入るまでもスロープが用いられていたが、建物内も各階がスロープで結ばれている。このスロープは建物の名前通り、坂をイメージさせるだけでなく、時間を感じるための手段として最適だと思った。もしこれがすべて階段だったとしたら、時間どころか空間さえ感じ取るのが難しい。なぜならどうしても階段は一段一段上るという意識があるからだ。そのため特に高齢者や小さい子供は下を向いて安全確保しながら建物を上ってしまう。しかしスロープだとこの問題が一気に解消される。つまずきや転倒のリスクも下がるため、建物と空間を感じ取ることや思考を働かせることに集中できる。人工的な建物内を移動するのではなく、自然にできた丘を歩くという意識が生まれてくるのだ。この歩くという動作により同じ建物にいるのに少しずつ別の場所へ進んでいるような感覚を得ることができ、ゆったりとした時間を過ごすことができるのだと思う。もう一つ内部で時間を感じる空間が、外から見た時にガラスカーテンウォールになっていた部分である。私が感動したのがガラス張りの休憩スペースだった。坂



の上の雲に関する資料やミュージアムの建築模型などを楽しむことができ、机と椅子で談笑する地域の人も見られる。そしてこの場所のガラス張りから見えるのが、同じ敷地内にある萬翠荘である。萬翠荘は大正時代、松山藩主の子孫が別邸として建てたフランス風の洋館だ。現在は国の重要文化財に指定されている。この萬翠荘を坂の上の雲ミュージアムから見ると窓枠が額縁のようになり、絵の中に入り込みタイムスリップした気分が味わえるのだ。そして萬翠荘と坂の上の雲ミュージアムは緩やかな傾斜のスロープで結ばれており、建物間の道が二つの建物それぞれをつないでいる。このスロープと大正浪漫を感じる萬翠荘を、現代の建築である坂の上の雲ミュージアムのガラス張り部分から眺めることで、大きな時間、歴史の流れをも感じさせられるのだ。

建築から時間を感じるということは、いつまでも飽きない空間づくりにつながっており、大通りから一つ入ったこの建物に人が集まるのはこのようなことが理由になっていると思う。よって、私にとって坂の上の雲ミュージアムは時間の建築なのである。